

カンショ「ベにまさり」ウイルスフリー2作目苗の特性		
<p>[要約]</p> <p>「ベにまさり」ウイルスフリー苗露地栽培2作目は増収効果や形状品質向上は認められるが帯状粗皮病の再感染により外観品質が低下する。</p>		
農業総合センター農業研究所	成果区分	技術参考

1. 背景・ねらい

青果用カンショ栽培ではウイルスフリー苗利用がほぼ100%で「ベニアズマ」はウイルスフリー苗露地栽培2作目までは利用可能となっているが、「ベにまさり」利用年限は明らかになっていない。そこで収量・品質（皮色、帯状粗皮病発生程度）からみたウイルスフリー苗の利用年限を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) ウイルスフリー苗露地栽培1作目(以下フリー1作目苗)では2L品以上収量が、ウイルスフリー苗露地栽培2作目(以下フリー2作目苗)ではM+L品収量が高く、塊根肥大促進によりフリー1作目苗・2作目苗とも非フリーより増収する。しかし、フリー2作目苗ではフリー1作目苗に比べ塊根肥大促進効果は劣る(表1)。
- 2) フリー1作目苗に帯状粗皮病の発生は認められないが、非フリー苗に比べ発生個数・発生程度は少ないもののフリー2作目苗には発生する。また、フリー2作目苗の皮色はフリー1作目苗に比べ劣る(図2)。「ベにまさり」2作目苗の帯状粗皮病再感染程度は「ベニアズマ」より多く「出島系4」と同等と推定できる。
- 3) 塊根肥大の助長によりフリー1作目苗では丸いもが増加する。フリー2作目苗は丸いもが少ないが、外観品質は帯状粗皮病の発生によりフリー1作目苗よりB品が増加する(図3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) フリー2作目苗を利用する場合は植え付け時や収穫時に混在しないよう注意する。
- 2) 成果2)の「ベにまさり」帯状粗皮病再感染程度は「サツマイモウイルスフリー化による収量・品質の向上効果と持続年限(普及に移せる技術:平成4年)」を参考に推定した。
- 3) 帯状粗皮病再感染の程度は栽培環境により異なる。
- 4) 過肥大防止のため施肥窒素は標準(ベニアズマ)以下、栽植密度は350株/a以上とし、健苗(7節7葉苗)4節を挿苗する。

4. 具体的データ

表1 ベにまさりウイルスフリー苗による生育・収量(H.17,18)

年度	苗質	系統名	つる重		上いも		1株上いも重	上いも重S品以下	M+L品	2L品以
			1個重	いも数	(総収量)	対標比				
			(kg/a)	(g)	(個)	(kg/a)	(%)	(kg/a)	(kg/a)	(kg/a)
	フリー1作苗	71-系122	196	346	2.7	378	127	44	185	149
H.17	フリー1作苗	71-系128	254	325	2.6	342	115	39	170	133
	参)非フリー苗	-	179	259	2.9	298	100	77	155	66
	フリー1作苗*	71-系128	444	380	1.8	273	102	33	77	164
H.18	フリー2作苗	71-系122,128混合	462	247	3.4	330	124	61	211	58
	参)非フリー苗	-	393	271	2.5	267	100	44	169	54

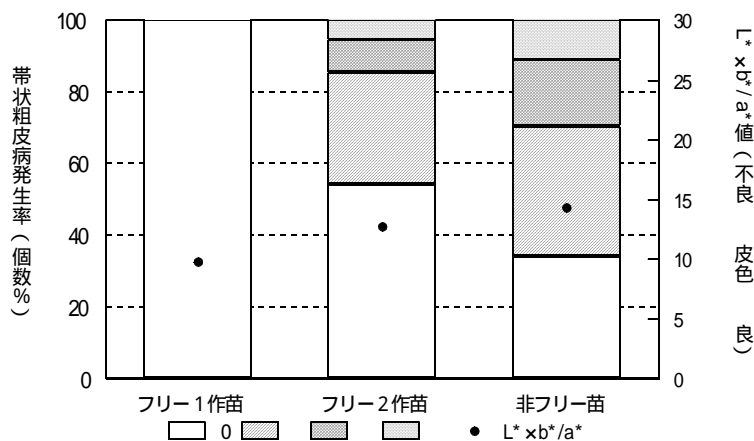
注1)フリー1作苗：ウイルスフリー苗露地栽培1作目、フリー2作苗：ウイルスフリー苗露地栽培2作目

2)挿苗期：5月下旬、収穫期：10月上旬 3)栽植条件等：400株/a、7節7葉苗を挿苗、黒マルチ栽培

4)土壌：表層腐植質黒ボク土 5)施肥量(Kg/a)：窒素0.1,リン酸1.2,カリ1.0

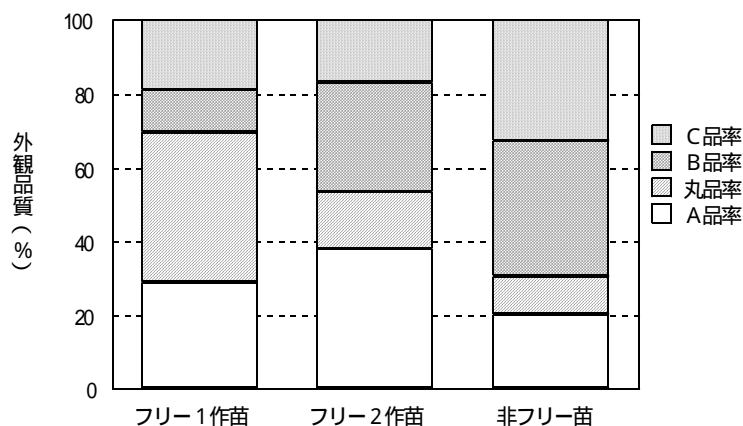
6)上いもは1個50g以上のいも

7)*H.18フリー1作目苗は活着が悪く、いも数が少なかった。



注1)帯状粗皮病の発生程度は0:無、:表面積の20%未満発生、:20%以上40%未満、:40%以上
2)皮色は色彩色差計による。L*a*/a*の数値は低いほど皮色が悪い。

図2 ベにまさりウイルスフリー苗による帯状粗皮病の発生と皮色(H.18)



注)外観品質：形状A品を帯状粗皮病発生程度、はB品に、はC品に分類した。
：形状B品を帯状粗皮病発生程度、はB品に、はC品に分類した。
：形状丸品を帯状粗皮病発生が認められたらC品に分類した。

図3 ベにまさりウイルスフリー苗による外観品質(H.18)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ブランドづくりのためのカンショ「ベにまさり」栽培特性の解明と栽培法の確立・平成17～平成19年・作物研究室、環境・土壌研究室